**日本病理学会近畿支部　託児サービスに関するアンケート**

Q1　日本病理学会近畿支部学術集会、近畿支部病理夏の学校で託児サービスを（１つに〇）

 （　　）現在、継続して複数回利用している　→　Q2へ

 （　　）過去に利用したことがある、単発で利用したことがある　→　Q2へ

 （　　）利用したことはないが、今後利用する見込みがある　→　Q7以降へ

 （　　）利用したことはなく、今後も利用する見込みはない　→　Q10へ

Q2　託児サービスを利用中または、一度でも利用された方に伺います

 一回に預けたお子様の人数は最大　（　　　）人

 うち小学生未満　（　　　）人

Q3　お子様を、土曜日に利用可能な他の手段で託児依頼した場合、かかる費用はおよそ

 （　　　　　　　　）円／日　　（お子様が複数の場合、総額でご記入下さい）

Q4　託児サービスの満足度はいかがですか

 悪い　　１　　２　　３　　４　　５　　良い

Q5　託児サービスを利用して、具体的に良かった点をご記入ください

Q6　託児サービスを利用して、具体的に改善すべき点をご記入ください

（次ページへ続く）

　現在、託児サービスは本部からの記念事業補助（10万円／年）を受け、無料で運営していますが、託児サービスがよく利用されている支部と、そうでない支部とが二極化しつつあります。託児の利用が多く、利用者負担を既に導入している支部もあります。

　近畿支部では、昨年度実績で総額 約19万円の託児サービス利用があり、今年度は約21.5万円（見込）と漸増傾向にあります。来年度は、託児の利用が少ない支部からのご厚意で、近畿支部は12万円／年の補助を受ける見通しです。また、学術総会案内葉書の送付を希望者のみにする、交通宿泊費に関するルールを明確にする等、支部運営コスト全般の削減に努めています。しかし託児サービスは記念事業補助のみでは賄い切れていないのが現状であり、また今後も補助が続くとは限りません。

　日本病理学会では、今後も継続した託児サービス提供のために、現在の記念事業補助を一般財源に組み込むことを検討していますが、そのために各支部で、ある程度の受益者（利用者）負担を求めていくことを検討してほしいとの要請を受けております。

Q7　今後、託児サービスが有料化された場合、１日あたりの負担額がどのくらいであれば、継続して利用したいと思いますか

 （　　　　　　　　）円／日　　（お子様が複数の場合、総額でご記入下さい）

Q8　今後、託児サービスが有料化された場合、１日あたりの負担額がどのくらいであれば、利用をためらうと思いますか

 （　　　　　　　　）円／日　　（お子様が複数の場合、総額でご記入下さい）

Q9　託児サービスの提供に際し、きょうだいで託児を利用する家庭の負担額について

　（　　　）　児の人数によらず、一家族ごとに一律の金額が良い

　（　　　）　児の人数に比例して増えるのが良い

　（　　　）　児が１人の時を基本料金に設定し、きょうだいは加算となるのが良い

　（　　　）　各家族で最も年少の児を基準として、年齢に応じて金額が決まるのが良い

（次ページへ続く）

【 **以降の質問は、皆様に伺います** 】

　現在、託児サービスの派遣は複数の会社の見積もりを取った上で、大阪の同じ会社に毎回依頼しています。大阪以外の地域で行事を開催する場合、託児人数、スタッフ数が増えるほど交通費がかさむデメリットがありますが、同じ会社に依頼することで、事務手続きの省力化、託児前にご準備いただく書類の書式が変わらないなどのメリットもあります。

Q10　託児サービスの派遣を毎回、同じ会社に依頼していることについて

　（　　　）　引き続き、今の会社に依頼するのが良い

　（　　　）　利用者負担が少しでも減るならば、開催地に近い会社を検討してほしい

Q11　託児サービスの提供に際し、利用者負担を求めることついて

　（　　　）　コストを更に削減し、できる限り利用者負担の無い形で継続を図ってほしい

　（　　　）　少額（～2000円／回）の利用者負担を求めた上で、継続を図ってほしい

　（　　　）　高額になってもいいので、財源を十分に確保して確実に継続してほしい

Q12　以下は【 **パブリックコメント欄** 】です。託児サービスに関する意見をご自由にお書きください。この欄にご記入いただいた意見は、後日、近畿支部ホームページで支部会員に向けて公表されることがあります。

 アンケートは以上です。ご回答ありがとうございました。